



CSRレポート

2020

自然の声をたいせつに、人と環境にやさしく…



住友共同電力株式会社
SUMITOMO JOINT ELECTRIC POWER CO.,LTD.

CSRレポート トップメッセージ



代表取締役 社長 丹 一志

当社グループは、住友の事業精神に基づき、「社会との共存共栄」を経営理念とした事業活動を通じて社会の発展に貢献することとし、エネルギーの供給と関連する製品、技術、サービスを提供してまいりました。

住友の事業精神には「自利利他公私一如」という、企業を利するだけでなく社会の利も考える精神があります。こうした事業精神は当社の経営理念や経営方針にも引き継がれ、当社グループの事業活動にも展開されています。

当社グループでは、すべての事業活動をCSRの対象とし、「社会の持続的発展への貢献」、「社会的信頼の向上」、「安全・安心な事業」、「人権尊重の事業活動」を4本柱としたCSR活動を推進しており、取組み項目は「コンプライアンス」、「リスクマネジメント」、「安全・衛生」、「環境保全」、「品質保証」など、多岐にわたります。

現在、社会的要請は大きく変化し、多様化しつつあります。2015年には、国連総会でSDGsが採択され、世界各国でSDGsの目標達成に向けた取組みが進んでおります。当社においてもSDGsの取組み項目を明確にし、事業活動を通じて取組みを推進しております。

当社グループは、産業用電力や蒸気などのエネルギー供給事業および付帯事業を通じて地域、社会に貢献しながら事業を持続的に発展させるとともに、様々な社会的要請に応えながら、事業活動を展開してまいります。

目次

CONTENTS

	CSRレポート トップメッセージ	1
	目次	2
1章	1. 会社概要	3
	2. ガバナンス	5
	3. 住友共同電力グループのコンプライアンス体制	6
	4. 顧客満足のさらなる向上を目指して	7
	5. 次世代を担う人材育成	8
2章	1. SDGsとは／共電グループのSDGsへの取組み	9
	2. 事業活動におけるSDGs	10
	3. バイオマス発電の普及促進	11
	4. 再生可能エネルギーの導入促進	12
	5. 炭酸ガス製造・供給事業	13
	6. 石炭灰有効利用／高品質フライアッシュ(CfFA)製造・販売事業について	14
	7. エネルギー(電力)に関する啓蒙活動	15
	8. 住共ECOチャレンジ(省エネ活動の推進)	16
	9. 地域・社会との共生を目指して	18
	10. 環境保全活動	19
	11. 環境負荷の概況	20
	12. 環境指標の推移	21

1. 会社概要

当社は、住友系企業発祥の地である、愛媛県新居浜市を中心に立地する住友グループ各社の工場へ電力および蒸気を供給しています。

また、四国電力株式会社と相互に電力融通を行い、地域の電力安定供給に努めるとともに、新電力や日本卸電力取引所を通じて電力を供給するなど広く社会に貢献しています。

会社設立は1919年（大正8年）ですが、その発祥は明治の別子銅山の電気部門に遡ります。これまで「信用を重んじ、確実を旨とし、浮利にはしらず」という住友の事業精神を尊重し、長い歴史に培われた技術と経験に基づき、電力の供給という公共性の高い事業を通じて、社会および地域の発展に寄与してきました。

住友共同電力株式会社と主なグループ会社は以下の通りです。

住友共同電力株式会社

会社設立	1919年（大正8年）2月
資本金	30億円
事業内容	電気および蒸気供給事業
従業員	約200名（グループ全体約400名）
保有設備 （グループ会社・ 関係会社含む）	火力発電所 579,600kW ●再生可能エネルギー 水力発電所 83,260kW 太陽光発電所 1,000kW バイオマス発電所 83,000kW

2019年度実績

供給電力量	35億kWh
蒸気供給量	179万t
純水供給量	212万t

・住共エンジニアリング株式会社

当社で長年蓄積された優秀な技術を基盤として、機械設備、電気設備、土木建築工事等の設計から工事の施工、メンテナンスまでの総合エンジニアリング事業を展開しています。

また、各種設備の建設指導あるいは運転指導等の技術指導も行い、国の内外を問わず、優秀な技術者の派遣を行っています。

・株式会社住共クリエイトサービスセンター（*）

環境にやさしい地域作りを目指して、事業所で不要となった木くずや林地残材をチップ化して木質バイオマス燃料として販売するチップ化事業や次世代コンクリート原料である高品質フライアッシュ（CfFA）の販売をはじめとする石炭灰の有効利用などを行っています。

（*2017年7月1日 株式会社住共クリーンセンターから社名を変更しました。）

・川崎バイオマス発電株式会社

当社の発電事業に関する技術と経験を活かし、2011年2月から神奈川県川崎市にてバイオマス発電事業を展開しています。

首都圏で発生する建設廃材等を主燃料にするバイオマス専焼発電所の運営を通じて、CO₂フリー電気の供給による地球温暖化防止と、エネルギーの地産地消に貢献しています。

当社の経営理念および経営方針

経営理念

当会社は、住友の事業精神に基づき、

1. 「顧客重視」、「社会との共存共栄」を基本とした事業活動を通じて社会の発展に貢献します。
2. 「高い倫理観」と「人間尊重の精神」に基づいた行動を通じて社会から信頼される企業を目指します。

経営方針

1. 当会社は、社会経済の発展に貢献するため、顧客の信頼と満足を得られるエネルギーの供給と関連する製品、技術、サービスを提供します。
2. 当会社は、社会の一員として、コンプライアンス、安全、環境を重視した事業活動を行います。
3. 当会社は、継続的な業務の変革により、生産性を向上させ、強靱な企業体質を構築します。
4. 当会社は、人間尊重を基本として、誇りと活力に満ちた企業風土を作ります。

住友共電グループCSR活動における4本柱

当社は、「経営理念」および「経営方針」に基づき、当社グループを含めた事業活動を通して、以下の4項目を柱とするCSRの取組みを推進することにより、共電グループ事業の持続的な発展を図るとともに持続可能な社会の発展に貢献します。

① 社会の持続的発展への貢献

顧客の信頼と満足を得られるエネルギーの供給と付帯関連する技術を通じて地域経済や社会の発展に寄与し、社会の持続的な発展に貢献します。

② 社会的信頼の向上

「コンプライアンス」、「リスク・クライシスマネジメント」、「公正な取引」の取組みを推進し、健全で社会から信頼される事業活動を行います。

③ 安全・安心な事業

「安全衛生」、「環境保全」、「品質保証」の取組みを推進し、地域、顧客、取引先、従業員等、すべてのステークホルダーに安全・安心を提供します。

④ 人権尊重の事業活動

顧客、株主、取引先、従業員等、事業に関わるすべての権利や人権に配慮し、人間尊重を基本としたダイバーシティに富んだ働きやすい職場環境をつくります。

住友共電グループCSR推進活動

【CSR推進体制について】

経営理念・経営方針

CSR活動4本柱

CSR推進委員会

1. 社会の持続的発展への貢献
3. 安全・安心な事業

2. 社会的信頼の向上
4. 人権尊重の事業活動

全体評価
改善・見直し

活動結果を報告

各部署・各組織の活動



各部署

・総務管理部
・経営企画部
・系統運用部
・購買部
・工務部
・発電部
・内部監査室

グループ会社

・住共エンジニアリング
・住共クリエイティブサービスセンター
・川崎バイオマス発電

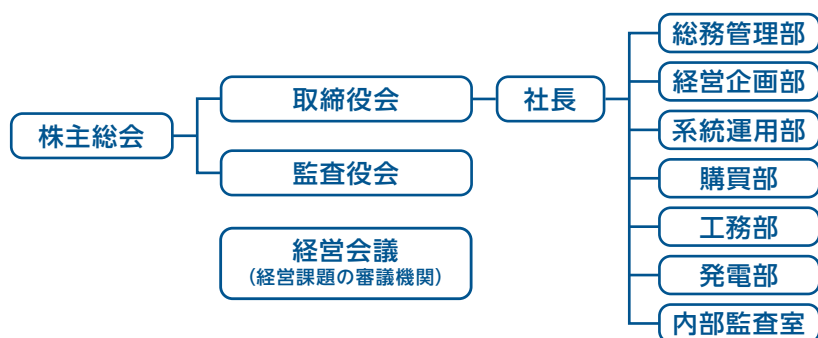
各種部会

・トラブル防止部会
・安全衛生部会(安全衛生推進会)

2. ガバナンス

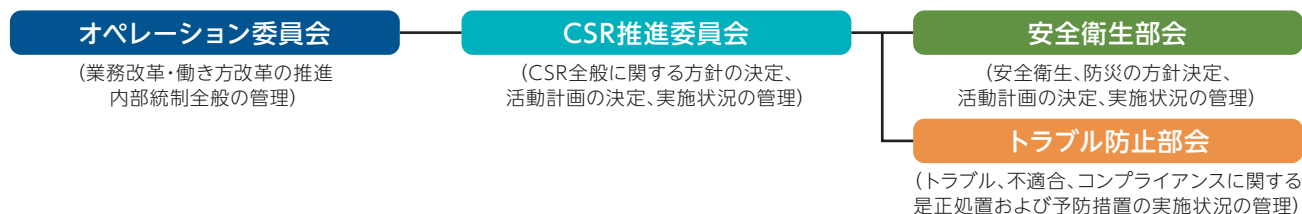
住友共電グループは、グローバル化が進む国際社会・変化する経済情勢の下で、さまざまなステークホルダーの利益、関心に配慮することが、コーポレート・ガバナンスの基本であると考え、その充実に努めています。

組織図



内部統制（委員会体制）

当社は、業務の適正を確保すべく、2015年6月25日開催の取締役会において、「内部統制システムの整備に係る基本方針」を決議し、下記のとおり内部統制組織を整備しています。



安全衛生管理施策

当社は、ライン管理を基本とし、一人一人が遂行責任を持ち協力会社と一体となって以下の安全衛生活動を推進することにより、無事故無災害の達成に努めています。

1. 労働災害ゼロを目指し、従業員全員参加の下に、安全衛生マネジメントシステムを確実に展開し、継続的に職場のあらゆる危険、有害要因を排除する。
2. 労働安全衛生法はじめ関係法令を遵守するとともに、会社で定めた安全衛生規程類に基づき、従業員の安全衛生を確保する。
3. 従業員の疲労やストレスを軽減するため、快適な職場環境への改善を継続的に進める。
4. 安全衛生教育、諸活動を実施し、従業員の安全衛生意識の向上を図る。
5. この安全衛生管理施策は、関連する協力会社へ周知し理解と協力を得る。

環境保全施策

当社は、エネルギー供給事業者として、燃料・原材料の購入から廃棄物の最終処分に至るまでの全事業について、以下の取組みにより、汚染の予防、環境保全および省エネルギーを継続して推進します。

1. 環境マネジメントシステムを継続的に改善する。
2. 環境に関する法令・協定その他の合意事項を遵守する。
3. 大気、水質等の環境側面の管理を徹底し、環境負荷の低減を図る。
4. 廃棄物の排出抑制、再利用および再資源化に取り組む。
5. エネルギー利用効率の向上および再生可能なエネルギーの利用向上に努める。

3. 住友共同電力グループのコンプライアンス体制

当社グループは、経営理念・経営方針に則り、コンプライアンスを重視する経営を効果的に実現するために、当社グループのコンプライアンス体制を規定した「コンプライアンス規程」を制定し、以下のようなコンプライアンス制度および組織の設置をしています。

住友共同電力グループコンプライアンス指針の制定

当社グループの役員、社員、派遣社員等、当社グループの管理・監督下で当社グループの事業活動に従事する人員が、法令および企業倫理を遵守し、コンプライアンス経営を推進するために守るべき諸ルールを定めています。

CSR推進委員会およびトラブル防止部会

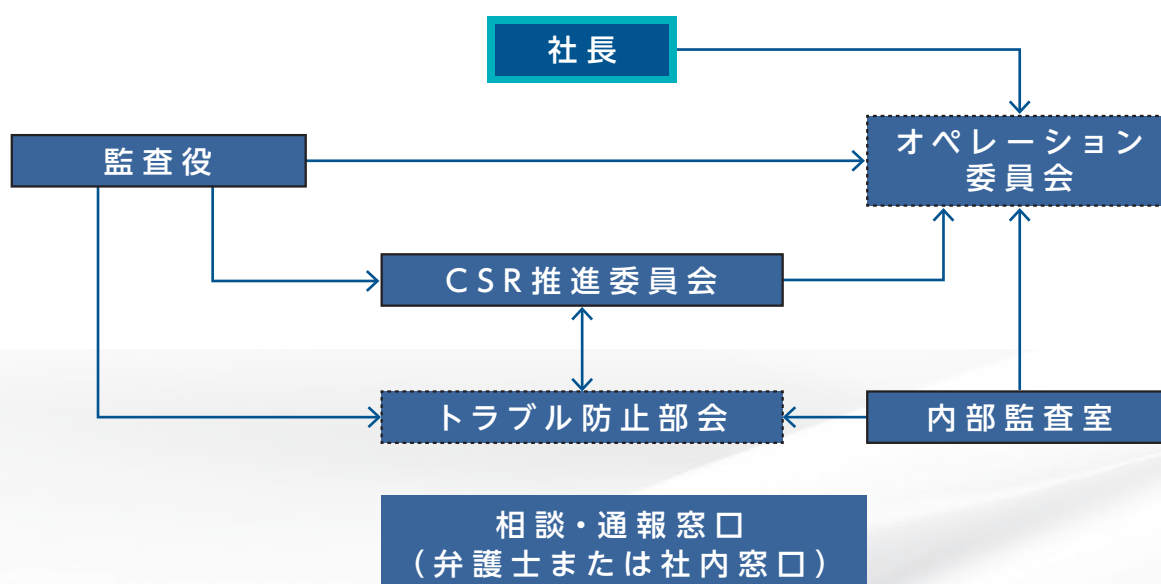
コンプライアンス重視の経営の確実な実践を監督・支援する組織として、CSR推進委員会およびトラブル防止部会を設置し、コンプライアンスに関する調査、監督権限を与えています。

相談、通報制度

コンプライアンスの違反や違反のおそれがある場合、職制ラインを通じて上司への報告により事態を処理することを原則としますが、何らかの理由により通常の報告ルートでは解決が図れない場合は、通常の報告ルート以外に報告ルートを確保しています。

この制度により違法・不正行為を抑制する効果があり、不幸にして現実に違法・不正行為があった場合には本制度を通じて事態の迅速な把握と是正を可能にするため、自浄作用システムが働くことを期待できます。

社内コンプライアンス体制



4. 顧客満足 of さらなる向上を目指して

顧客の信頼と満足を得られるエネルギーの供給を実現

当社は、別子銅山の電気部門をルーツとして、1919年に設立されました。

創業以来、「信用を重んじ、確実を旨とし、浮利にはしらず」という住友の事業精神を尊重しながら、「低廉・良質な電気・蒸気の安定供給」の事業方針の実現を通じて、顧客ニーズにマッチしたエネルギーの供給に努めてまいりました。

エネルギーの多様化とベストミックスへの取組み

愛媛県に3か所の火力発電所と愛媛県および高知県に12か所の水力発電所を有し、低廉・良質な電気・蒸気などのエネルギー供給事業を行っております。加えて、地球環境に優しい再生可能エネルギーの導入にも積極的に取り組んでおり、水力発電の増出力や火力発電所でのバイオマス混焼、神奈川県川崎市および北海道紋別市における合併でのバイオマス発電事業への取組み、メガソーラーや小水力の開発など様々な取組みを進めています。

また、エネルギーの多様化を進めるため、当社初の天然ガス火力発電所である新居浜北火力発電所（2022年完成予定）の建設を鋭意進めています。

当社の強みを活かした多面的な事業を展開

エネルギー事業のほか、炭酸ガス（CO₂）の製造供給事業、石炭灰を活用した次世代コンクリート原料の製造販売、グループ会社を通じた電力に関わるトータルエンジニアリング、バイオマス燃料製造など、当社の強みを活かした多面的な事業展開を通じて、顧客満足の向上を図っています。

今後も、顧客のニーズにマッチした事業活動を積極的に推進し、顧客満足のさらなる向上に努めていきたいと思ひます。

●住友共電グループの事業紹介



5. 次世代を担う人材育成

当社では、自ら考え、継続して業務を改革していくため、自主的に行動する「逞しい社員」の育成に努めています。

「逞しい社員」を育成するため、新入社員研修に始まる各種研修、自主的に学ぶ姿勢を後押しする資格取得の推進や通信教育サポート制度などを通じて、社員一人一人がレベルアップできる環境を整えています。

「逞しい」人材像

1. 幅広く高度な技術・知識の習得
2. 問題点や改善点を見出し、チャレンジングな目標を策定
3. 目標達成のための実施プランを立て、上司へ提案
4. 組織体制をつくり、かつそのリーダーとなり課題を完遂

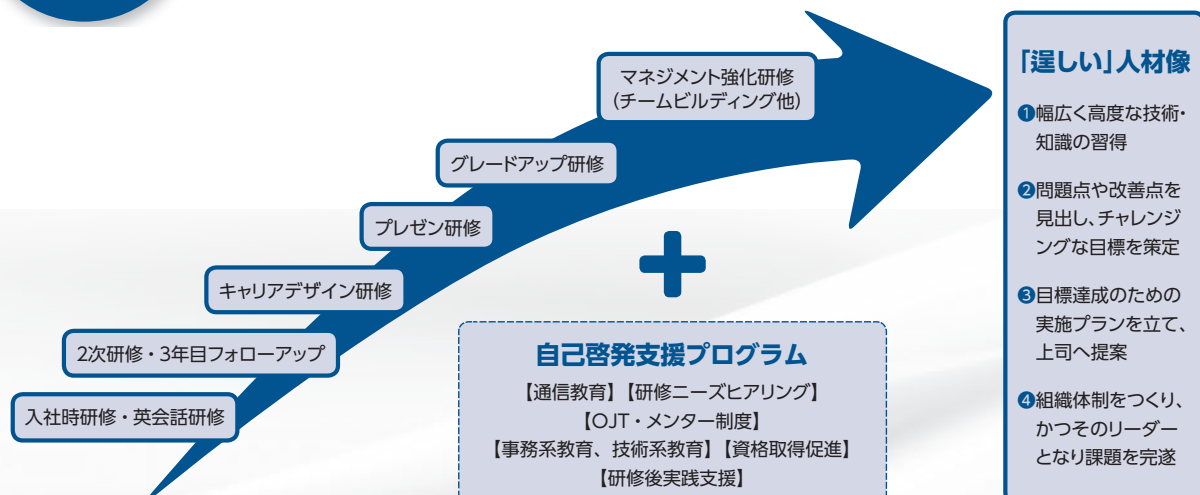
教育・研修制度

	ベーシック研修	テーマ研修	専門教育	自己啓発	OJT
管理社員	管理者昇任研修	マネジメント強化研修 ・部下教育 ・チームビルディング ・課題解決		eラーニング 通信教育 資格取得	OJT力強化教育
一般社員	グレードアップ研修 3年目フォローアップ 新入社員2次研修 入社時教育 入社前教育	異業種交流研修 プレゼンテーション研修 ロジカルシンキング研修 英会話教育	事務部門教育 技術部門教育		メンター制度
再雇用者	再雇用者研修				

共電グループ の 人材育成

「一人一人のマンパワーを伸ばす。充実した育成体制を完備。」

「逞しい社員」を目指し、キャリアステージに合わせて社員のレベルアップをサポートします。研修後の職場実践支援や面談でのフィードバックなど、研修効果を最大限にする体制を整備しているほか、通信教育費補助、国家資格合格祝い金等、自己啓発支援も充実しています。



1. SDGsとは／共電グループのSDGsへの取り組み

持続可能な開発目標 (SDGs) (Sustainable Development Goals) とは

2015年9月、全国連加盟国(193国)は、より良き将来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs)」です。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものです。

●外務省ホームページ SDGs取り組み

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



共電グループのSDGsへの取り組み

当社グループは、エネルギー供給事業を通して持続性可能な社会の発展(SDGs)を推進するため以下の3項目の取り組みを進めます。

目標7

①「エネルギー」の観点



エネルギーをみんなに
そしてクリーンに
省エネ、再生可能エネルギーなど

目標12

②「資源を使い生産する」観点



作る責任 使う責任
石炭灰の有効活用など

目標13

③「自然環境保全」の観点



気候変動に
具体的な対策を
CO₂削減の取り組みなど

2. 事業活動におけるSDGs

新居浜北火力発電所およびLNG基地の建設について

●新居浜北火力発電所の建設

当社では、エネルギーの多様化と環境負荷低減の観点から、天然ガスを主燃料とする出力15万kWの新居浜北火力発電所の建設を進めています。

新居浜北火力発電所では、近隣の化学プラントから発生する副生水素ガスも燃料として有効活用するとともに、発電のために使用した蒸気を供給するコージェネ方式を採用することで、高いエネルギー効率を実現できるものとなっています。

【出力:約15万kW 工事着工予定:2020年7月 運転開始予定:2022年7月】

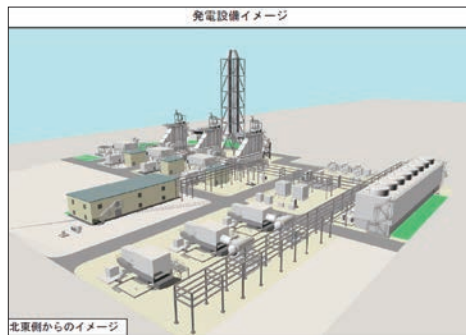
●新居浜LNG基地の建設

新居浜北火力発電所および住友化学愛媛工場構内等への天然ガス供給事業を行うため、当社と東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、住友化学(株)、四国電力(株)、四国ガス(株)の5社共同にて、新居浜LNG(株)を設立し、LNG基地の建設を進めています。

【所在地:新居浜市惣開町 LNG基地操業開始予定 2022年2月】



LNG基地完成イメージ



北火力発電所完成イメージ

出力: 15万kW
燃料: 天然ガス、
副生ガス(水素)

コージェネレーション(熱電併給)によるエネルギー効率の向上

当社では、新居浜西火力発電所3号機および新居浜東火力発電所にて、発電した際に発生する蒸気を近隣の化学プラントのプロセス蒸気として供給することで、発電のみを行うシステムと比較して、エネルギー効率を大幅に向上させています。

※コージェネレーション(熱電併給)システム

熱源から電気と熱(蒸気)を取り出して、エネルギー効率を高めるシステムです。

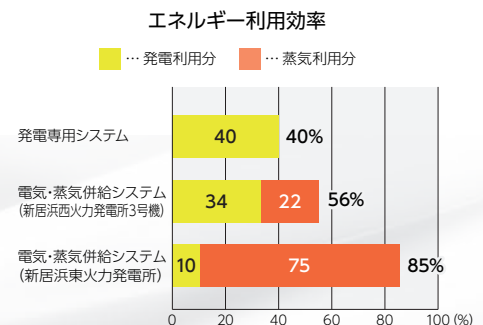
〈コージェネレーションを導入している設備〉



西火力発電所3号機



東火力発電所



3. バイオマス発電の普及促進

火力発電所におけるバイオマス燃料の利用

●木質バイオマスの利用

新居浜西火力および壬生川火力発電所では、木質バイオマスを燃料として有効利用することにより、石炭消費量を節約しCO₂排出量の削減を図っています。

木質バイオマスの利用量を増加させるため、林地残材(山林に放置され利用されずにいた間伐材等の森林資源)の有効利用にも取り組んでいます。林地残材の利用は、CO₂排出量の削減だけでなく、山林の保全にも貢献できます。



林地残材設備(新居浜西火力発電所)
手前:原木置場 奥右:破砕設備

●下水処理場からの消化ガスの利用

新居浜東火力発電所では、新居浜市と協力し下水処理場の処理過程で発生する消化ガス(主成分メタン)をボイラの燃料として利用することで、CO₂排出量の削減を図っています。

●バイオマス燃料使用実績

項目		年度	2015	2016	2017	2018	2019
バイオマス 使用量(t)	西火力		5,700	9,000	8,900	7,400	8,700
	壬生川火力		500	1,900	1,800	1,100	1,400
	東火力		220	290	200	500	500
	合計		6,420	11,190	10,900	9,000	10,600
CO ₂ 削減量(t)			8,100	13,400	13,300	12,000	13,000



破砕後(チップ)

注) バイオマスの燃焼によってもCO₂は発生しますが、バイオマスはもともと大気中のCO₂を吸収して成長するため、それを燃焼させても化石燃料と違って、大気中のCO₂の増加にはならず、CO₂を排出したとはみなされないことになっています。

100%CO₂フリーの川崎バイオマス発電事業

グループ会社の川崎バイオマス発電株式会社では、当社、住友林業株式会社およびフルハシEPO株式会社の3社合併にて2011年2月より神奈川県川崎市においてバイオマス発電事業を実施しています。

川崎バイオマス発電所は、建設廃材等の木質バイオマス燃料を利用した出力33,000kWの国内最大級のバイオマス専焼発電所です。この事業を通し、首都圏で発生する木質廃棄物、食品残渣の有効利用などによりサーマルリサイクルの促進、エネルギーの地産地消に貢献しています。また、CO₂フリーの発電を行うことにより、年間12万tのCO₂を削減することができ、地球温暖化防止に貢献しています。



川崎バイオマス発電所

紋別バイオマス発電事業

当社および住友林業株式会社の合併事業として紋別バイオマス発電株式会社を設立し、北海道山間部の未利用資源を主燃料としたバイオマス発電事業を北海道紋別市において実施しています。

発電出力は国内木質バイオマス発電所では最大級となる5万kWで、燃料に今まで使用されていなかった間伐材などの森林資源を主に使用することで、地球温暖化防止と森林保全を通じて地域社会に貢献しています。



紋別バイオマス発電所

4. 再生可能エネルギーの導入促進

既設水力発電所出力増の取組み

当社では、従来からの設備更新時の高効率化による出力増に加えて、制度改革により河川の水量が多い時期に水力発電所の発電量を増やすなど、既設水力発電所出力増の取組みを進めています。

当社は、今後も水力エネルギーの有効活用等により、地球環境の保全および地域への貢献などの役割を果たしてまいります。



高敷発電所



川口発電所



五王堂発電所



兎之山発電所

●水力発電所出力増の実績

発電所名	水系名	出力(kW)			増出力実施日
		変更前	変更後	増出力	
高敷発電所	吉野川	14,300	15,600	1,300	2018年
川口発電所	物部川	7,000	7,200	200	2015年
仙頭発電所	物部川	7,000	7,100	100	2016年
五王堂発電所	物部川	11,100	12,200	1,100	2015年
大保木発電所	加茂川	3,100	3,160	60	2010年
兎之山発電所	加茂川	7,500	8,000	500	2020年

太陽光発電設備の利用

再生可能エネルギーの積極的な導入を図るべく、壬生川火力発電所の敷地内に発電出力約1,000kWの太陽光発電設備を設置し、2013年3月より営業運転を開始しました。



壬生川火力発電所内に設置した太陽光発電設備

小水力発電の運転

高知県土佐郡大川村に出力150kWの小水力発電所(大平水力発電所)を建設し、2014年6月に営業運転を開始しました。



大平水力発電所

5. 炭酸ガス製造・供給事業

設備・事業について

新居浜西火力発電所3号機(新居浜市磯浦町)に炭酸ガス(CO₂)分離回収設備を設置し、排ガスから分離製造したCO₂を、住友化学(株)愛媛工場で2018年に増強したメチオニン製造設備の副原料として利用するため、2018年7月から供給を開始しました。

このように石炭を使用した火力発電所のCO₂を利用する試みは、日本初であり他に先駆けた取組みとなります。

また、発電所で発生するCO₂を有効利用することで、CO₂排出原単位を抑制することができます。

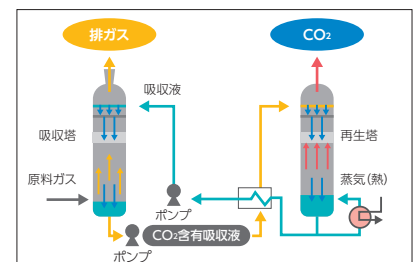
当社は、本事業をはじめ、様々な取組みによりCO₂排出原単位の削減を積極的に推進してまいります。



炭酸ガス製造設備

事業場所：新居浜西火力発電所構内
生産能力：約48,000トン/年
供給開始：2018年7月
供給先：住友化学
用途：メチオニン製造における副原料として

炭酸ガス製造設備概要



炭酸ガス製造設備プロセス図

「スミカ・サステナブル・ソリューション」への認定

2019年、本事業は住友化学株式会社が実施する「スミカ・サステナブル・ソリューション(持続可能な社会づくりに貢献する製品や技術認定)」に認定されました。本認定に伴い、同社より認定証(盾)が授与されました。

当社は、今後も本事業をはじめ、様々な取組みによりCO₂排出原単位の削減を積極的に推進します。



授与式



認定証

6. 石炭灰有効利用／高品質フライアッシュ (CfFA) 製造・販売事業について

石炭灰有効利用の拡大

当社の産業廃棄物のほとんどは石炭灰です。循環型社会の構築に向けて、石炭灰の有効利用の拡大に力を入れており、セメント用、土木資材など灰の性状に応じた用途の開拓を進めています。

●石炭灰有効利用実績

項目 \ 年度	2015	2016	2017	2018	2019
有効利用量(千t)	181	163	164	141	136
有効利用率(%)	90	90	91	89	88



石炭灰の積み入れに向かう車両
(壬生川火力発電所)

石炭灰の有効利用用途



排水材として石炭灰を利用したゴルフ場



公園のコンクリート混和材として有効利用

高品質フライアッシュ (CfFA) のご紹介

●次世代コンクリート材料(高品質フライアッシュ (CfFA)) の製造

住友共電グループでは、石炭火力発電所から発生する石炭灰を加工し、灰中に含まれる未燃カーボンを極限まで低減した高品質フライアッシュ (CfFA) を製造しています。

石炭灰中の未燃分を1%以下に低減しており、未燃分を1%以下にすることで、コンクリートの長寿命化に貢献し、品質を向上させることができます。

●高品質フライアッシュ (CfFA) を使用した工事の施工例

砂防堰堤(土木工事: マスコンクリート用)

CfFAによる効果

CfFAでセメントを代替しているため発熱量が小さいことや、ポゾラン反応がゆっくりとした反応のため、温度によるひびわれが低減できます。コンクリートボリュームの多いマスコンクリートに適しています。



砂防堰堤 (CfFA使用)

建築工事(美装効果・ライフライン強化)

CfFAによる効果

コンクリートがCfFAのポゾラン反応により、ち密になりますので表面が滑らかで美観が向上できます。打ちっぱなし構造物、建築物の施工に向いています。また、流動性が向上するため狭い場所への打設が可能です。



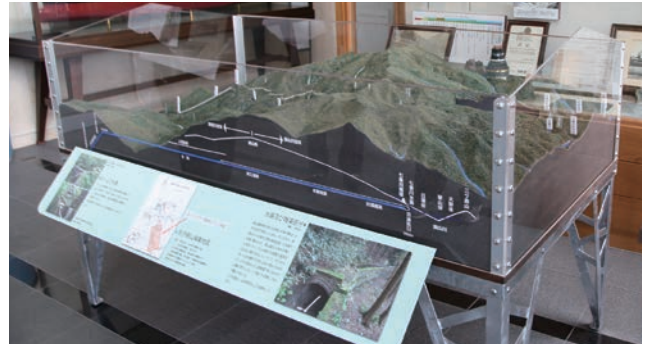
建築物 (CfFA使用)

7. エネルギー（電力）に関する啓蒙活動

旧端出場水力発電所ジオラマを新居浜市へ寄贈

2014年2月、新居浜市に対して旧端出場水力発電所(*)のジオラマを寄贈しました。

寄贈したジオラマは新居浜市役所の1階ロビーに展示され、別子銅山に関する説明資料の一つとして活躍しています。



(*)旧端出場水力発電所は2018年3月電気学会の「でんきの礎」で顕賞を受けました

火力発電所の見学

地元の工業高校生による実地研修の一環として、当社火力発電所の見学会を行っています。



バイオマス燃料製造設備等の見学

NPO法人環境NPOサンラブ会員等約30名による林地残材設備等（西火力発電所）の見学会を実施しました。再生可能エネルギーの利用および森林保全についての学習という位置づけの中、実際に木質チップを手取るなど、みなさん熱心に林地残材設備を見学し、林地残材バイオマスおよび再生可能エネルギーについての理解を深めていただきました。



8. 住共ECOチャレンジ（省エネ活動の推進）

地球温暖化防止に向け国内でさまざまな取組みが進められている中、共電グループとしてもCO₂削減への取組みをさらに強化することとし「住共ECOプロジェクト」として取組んできました。

2018年度からは、家庭や個々の取組みに重点を置き、啓発活動やさまざまなイベントを通じて、自発的・積極的に環境活動を実施するよう、「住共ECOチャレンジ」と改称し環境意識の向上と風土づくりに取組んでいます。

基本方針

1. 省エネ・リサイクル活動等によりCO₂を削減

家庭や個々の省エネ・3R活動によるCO₂削減で低炭素社会を目指す。

2. 自然環境保全活動および家族を含めたグループ社員の省エネ意識の向上

家族を含め全グループ社員による自然環境保全活動を行うとともに情報提供を通じて啓蒙を行う。

3. 地域貢献活動

清掃ボランティア活動等を通じて当グループ事業地近隣地域に貢献する。

住共ECOチャレンジ推進スローガン

小さなECOの積み重ね 地球に優しいECO活動 未来へつなごうECOチャレンジ！

空調関係省エネ、照明のLED化をはじめとする照明関係省エネ、省エネ提案の促進、ハイブリッド車の導入など日常の業務活動の中でも省エネにつながる活動に取組んでいます。

社員の省エネに対する取組み

CO₂削減を推進するため、下記の取組みで共電グループ社員の意識向上を図っています。

- ・ 温暖化ガスの削減を目的としたノーマイカー通勤の奨励。
（毎月第3水曜日）
- ・ ノー残業デーを設定し、就業時間後の電力消費の抑制。
（毎週水曜日、毎月月末金曜日）
- ・ 昼休みなど不使用時のPCの電源切の徹底、
こまめな照明の消灯。
- ・ 社用車運転時のエコドライブの教育および実践。
- ・ フールビズ・ウォームビズの推進。



共電グループ省エネ推進看板

既設設備の改善

1. 火力発電所 高効率ポンプ採用、モータのインバータ化による省エネ推進

高効率ポンプの採用や、モータのインバータ駆動化により、消費電力を約30%削減し、CO₂排出量の削減を行っています。

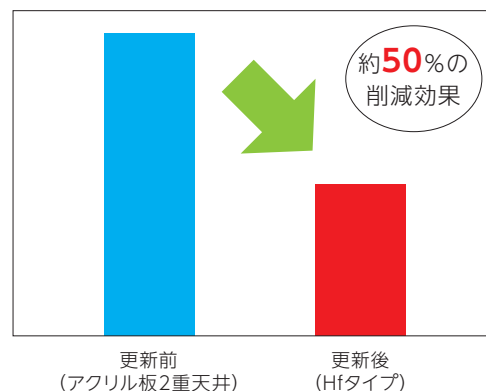
2. 火力発電所 中央制御室 天井照明改良

光天井（アクリル板2重天井）からHfタイプ（高効率インバータ式）に更新し、消費電力を約50%削減できました。



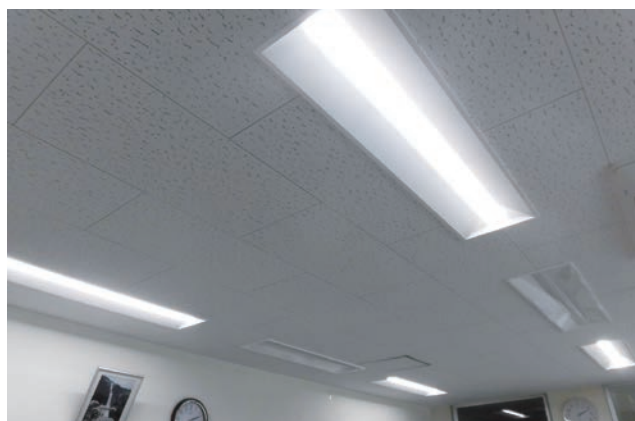
Hfタイプ（高効率インバータ式）

〔天井照明改良による消費電力の削減〕



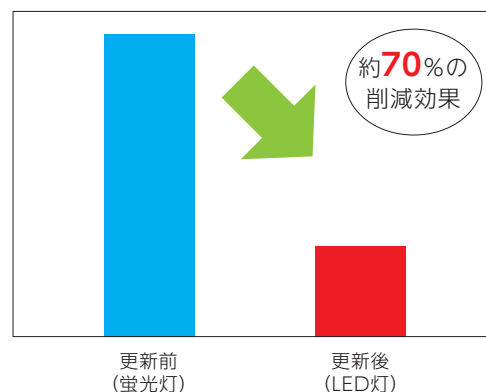
3. オフィス照明LED化

オフィス照明を蛍光灯からLED灯に更新し、消費電力を約70%削減できました。



オフィス照明更新後のLED灯

〔LED照明化による消費電力の削減〕



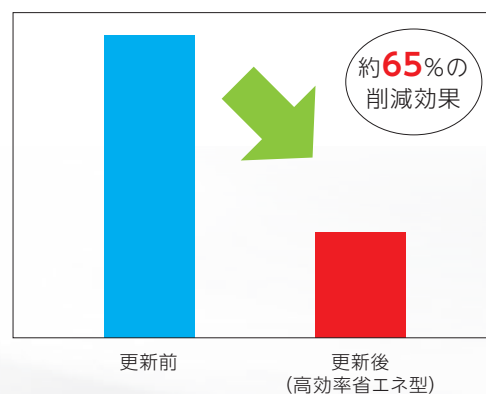
4. 高効率省エネ型エアコンの導入

エアコンを高効率省エネタイプに更新し、消費電力を約65%削減できました。



本館・2号館エアコンの更新

〔高効率省エネ型エアコン導入による消費電力の削減〕



9. 地域・社会との共生を目指して

住友共同電力は「社会との共存共栄」を経営理念に掲げ、地域とともに発展し、社会の一員としてさまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。

ボランティア休暇制度

当社は、災害被災者支援などを目的として、ボランティア活動による休暇を認め、社員のボランティア活動を支援しています。

各種清掃ボランティア活動

●石鎚ふれあいの里清掃

当社大保木共発電所近くにある石鎚ふれあいの里において、毎年ボランティア清掃活動を行っています。



●高須海岸清掃

当社壬生川火力発電所近くにある高須海岸清掃ボランティアに協賛し、当社社員による海岸清掃を行っています。



かながわSDGsパートナーへの登録 (川崎バイオマス発電：当社グループ会社)

当社グループ会社である川崎バイオマス発電は、2019年に神奈川県が県内の企業におけるSDGs推進の裾野を広げることを目的として創設した「かながわSDGsパートナー」として登録されました。

川崎バイオマス発電では、引き続きCO₂フリー電気の安定供給、資源の有効活用および温室効果ガスの抑制等により、県や登録企業と連携しながら持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。



登録証の授与



10. 環境保全活動

環境保全を推進するための組織

住友共同電力は、最高責任者である社長のもと、安全・環境に関する社内方針等を決定し、活動を推進する組織および、グループのコンプライアンスを監督・支援する組織として「CSR推進委員会」を設置しています。

CSR推進委員会では、環境保全・省エネ等に関する基本計画、目標の策定、実施状況のレビュー等を行っています。また、コンプライアンスを重視する経営を実現するため、グループ全体を対象とした調査・監督権限を有しており、環境規制や法令の遵守状況についてチェックを行い、不適切、不明確な事例等があった場合には、是正処置の実施を指示し、教育、周知を行うなど改善を行っています。

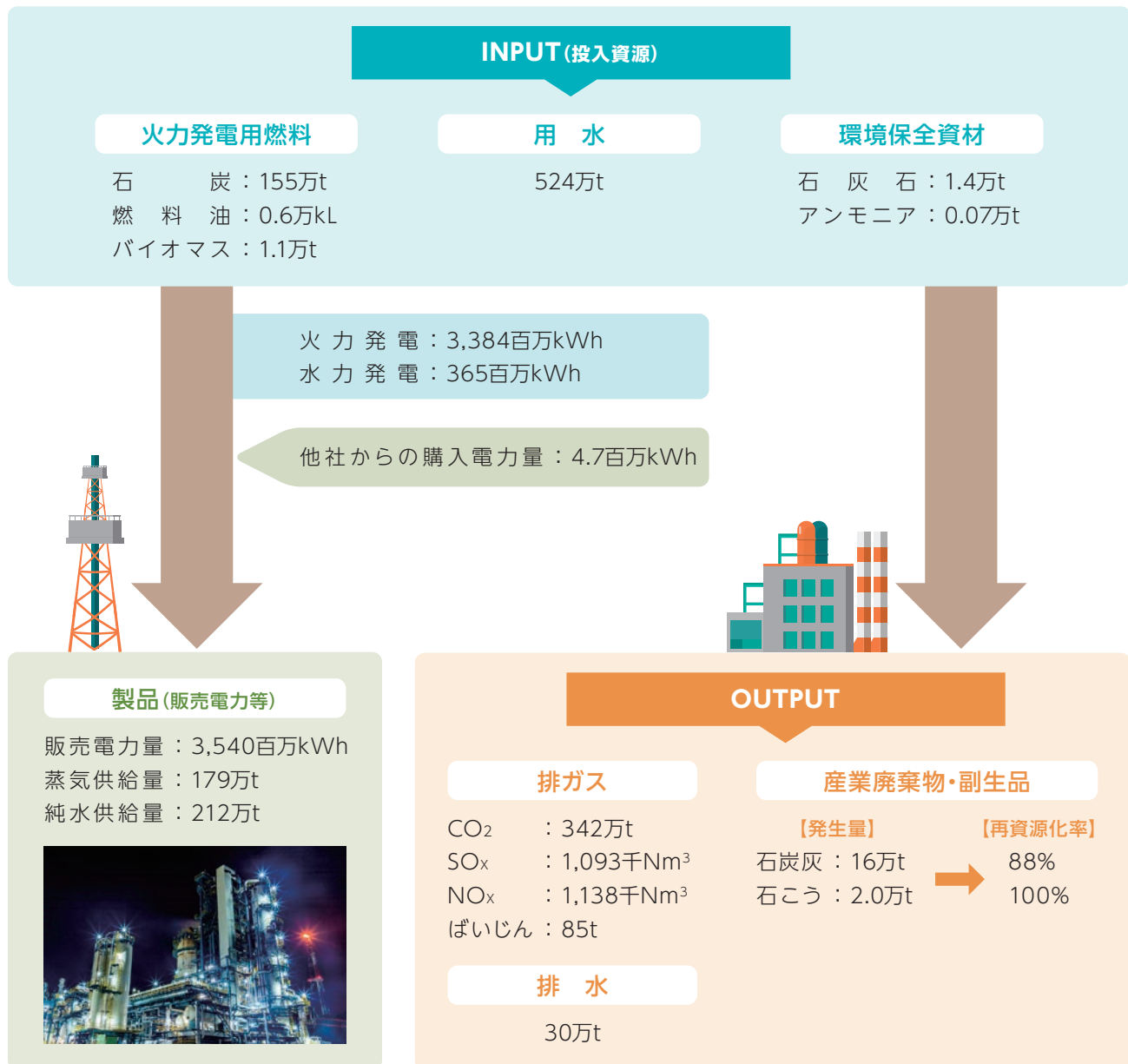
環境保全目標・重点項目

重点項目	2019年度達成状況
法規制値・協定・自主基準の遵守	法規制値・協定・自主基準いずれも遵守
周辺に対する環境トラブル0（ゼロ）	周辺に対する環境トラブルなし
省エネルギー・省資源の管理	新居浜西火力発電所3号機省エネプロジェクト開始
廃棄物の適正管理	石炭灰の有効利用率実績88%・高品質フライアッシュCfFAの販売
環境マネジメントシステムの定着	環境保全業務の体系整備・PDCAサイクルによる体系的改善

●環境に関する具体的指標

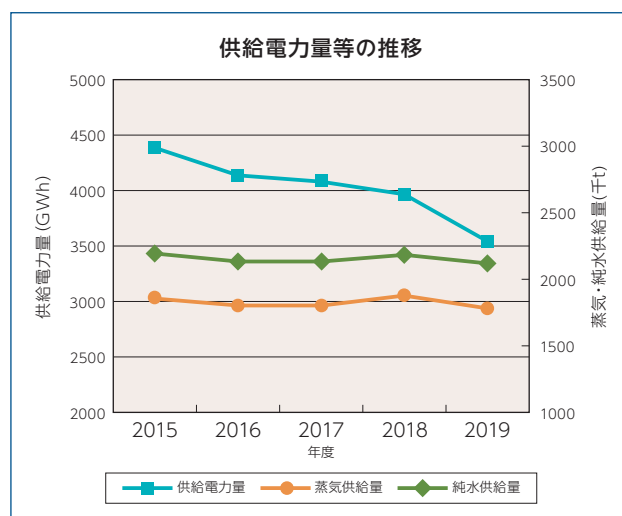
項 目	年 度 単 位	実 績			備 考
		2017	2018	2019	
火力発電端効率	%	37.4	39.0	38.9	
火力送電端効率	%	34.9	36.3	36.1	
送配ロス率	%	1.5	1.7	1.6	
CO ₂ 排出原単位 (火力送電1kWh当たり)	kg/kWh	0.93	0.93	0.93	
SO _x 排出原単位 (同上)	g/kWh	0.89	1.02	0.86	
NO _x 排出原単位 (同上)	g/kWh	0.67	0.70	0.66	
総合熱効率	%	44.8	48.4	48.1	
石炭灰有効利用率	%	91	89	88	

11. 環境負荷の概況 INPUT・OUTPUT (2019年度 実績値)

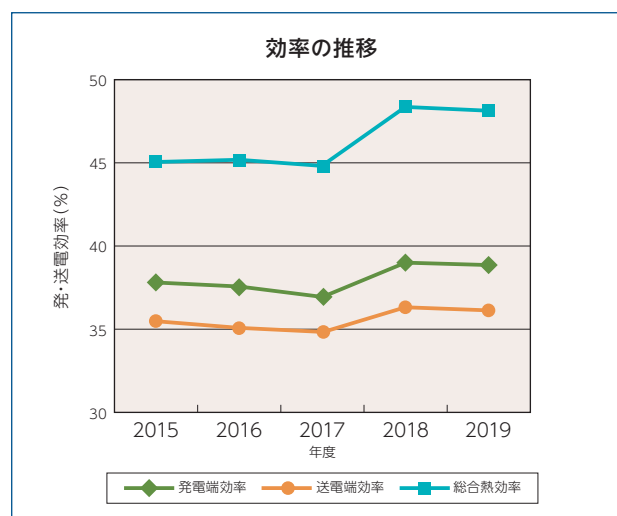


12. 環境指標の推移

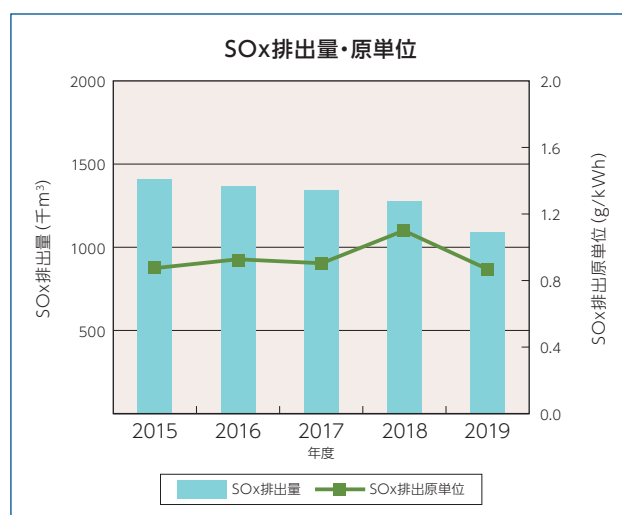
供給電力等



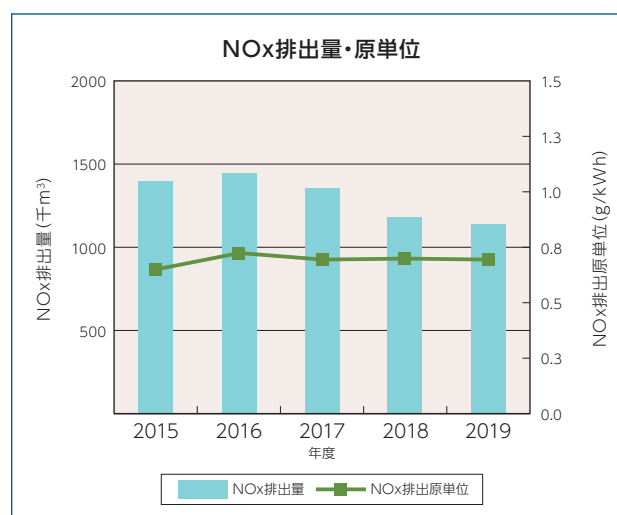
効率



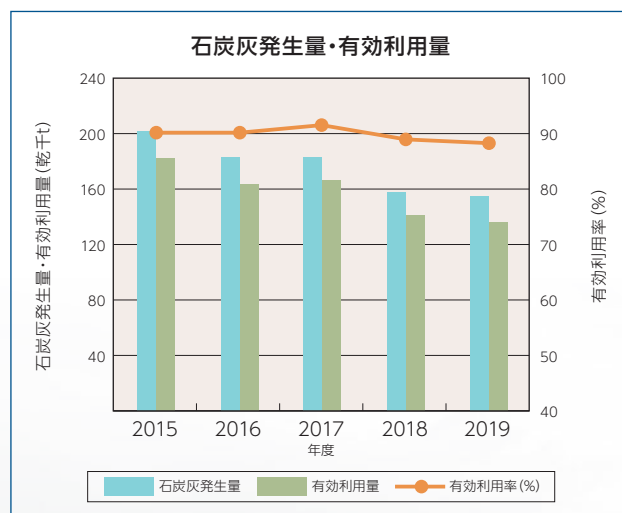
硫黄酸化物



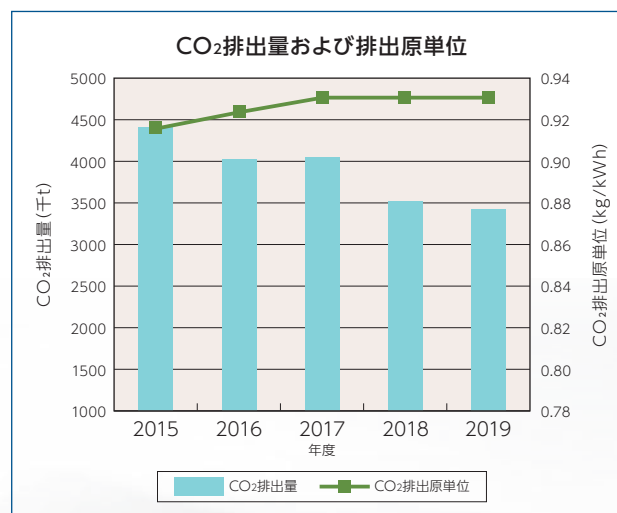
窒素酸化物



石炭灰発生量および有効利用量



CO₂排出量および排出原単位



※SOx排出原単位、NOx排出原単位、CO₂排出原単位は、いずれも火力送電端の数値



住友共同電力株式会社
SUMITOMO JOINT ELECTRIC POWER CO.,LTD.

本社

〒792-8520
愛媛県新居浜市磯浦町16番5号
IP電話 050-8802-1001
TEL (0897) 37-2142 FAX (0897) 32-9862

東京事務所

〒210-0867
神奈川県川崎市川崎区扇町12番6号 川崎バイオマス発電所内
IP電話 050-5526-9439
TEL (044) 201-6775 FAX (044) 201-6776

ホームページ <http://www.sumikyo.co.jp>